

地 球 温 暖 化 対 策 実 施 状 況 書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 （届出者）の名称	エヌピーエフジャパン株式会社
地球温暖化対策事業者 （届出者）の住所	千葉県美浜区新港229-3
工場等の名称	エヌピーエフジャパン株式会社名古屋工場
工場等の所在地	名古屋市港区千鳥2丁目9-16
業種	製造業
業務部門における 建築物の主たる用途	工場
建築物の所有形態	自社ビル等（自ら所有し自ら使用している建築物）
事業の概要	犬、猫用ペットフードの製造、販売
計画期間	令和3年4月1日 ～ 令和6年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

公表期間	令和6年9月30日 ～ 令和6年12月29日		
公表方法	○	揭示 閲覧	（場所） エヌピーエフジャパン株式会社名古屋工場生産課
		ホーム ページ	（HPアドレス）
		冊子	（冊子名・ 入手方法）
		その他	（その他詳細）
公表に係る問合せ先	052-661-9251		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

環境負荷のますますの増大が懸念される私たち地球の未来にとって、環境問題が緊急重要課題のひとつであると位置づけ、日本製粉グループの一員として環境の保全に積極的かつ継続的に取り組み行動します。

1、国の内外において、環境改善の施策遂行に協力し、環境関連法規、規制を遵守します。

(2) 地球温暖化対策の推進体制

省エネ委員会

委員長：工場長

副委員長：生産課長

委員：各職場代表他 10名

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 3 年度目（令和 5 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		4,426	t-CO ₂
（温① 二室を 酸効除 化果く 炭ガ 素換排 算）出 量	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）	4,426	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量及び原単位排出量
------------------	--------------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 2 年度		令和 5 年度		令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度			
温室効果ガス 総 排 出 量	3,681	t-CO ₂	3,570	t-CO ₂	3,983	t-CO ₂	3,976	t-CO ₂	4,426	t-CO ₂
削減率（対 基準年度）			3.0	%	▲ 8.2	%	▲ 8.0	%	▲ 20.2	%
温室効果ガス みなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）						%		%		%

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 2 年度		令和 5 年度		令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度			
原単位あたりの 排 出 量	0.9948	/ 百万円	0.965	/ 百万円	0.9483	/ 百万円	0.8124	/ 百万円	0.7328	/ 百万円
削減率（対 基準年度）			3.0	%	4.7	%	18.3	%	26.3	%
原単位あたりの みなし排出量						/ 百万円		/ 百万円		/ 百万円
削減率（対 基準年度）						%		%		%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

省エネ対策は概ね計画通り進んでおり、また前年度に比べ売上高が増加したため、原単位あたりの排出量は削減目標を達成した。
--

備考 1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考 2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考 3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考 4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
一般管理・エネルギー使用量等の把握及び管理	・エアリー漏れ・蒸気漏れ箇所を把握し削減する	令和5年度までに、エアリー漏れ・蒸気漏れの量を令和2年度比で半分以下にする。	年間を通して実施した。
省エネルギー・省資源の推進・冷暖房	・冷房28℃、暖房20℃を徹底する ・屋根の遮熱塗装等により、侵入熱を低減する	令和5年度までに、第1工場の屋根を遮熱塗装する。	年間を通して実施した。第1工場及び事務所の屋根の遮熱塗装工事、及び一部の窓の断熱工事を完了した。
省エネルギー・省資源の推進・高効率機器への更新	・機器の購入・更新時は高効率機器を指定する	令和5年度までに、老朽化したコンプレッサーを更新する。	年間を通して実施した。
省エネルギー・省資源の推進・照明	・使用していない部屋や昼休み・時間外の消灯及び消し忘れの無いよう徹底 ・照明のLED化を進める	令和5年度までに、蛍光灯の台数を令和2年度比で半数以下にする。	原料西倉庫、撒原料タンク下、自動包装室、第1工場包装室の一部照明のLED化を完了した。
省エネルギー・省資源の推進・OA機器	・パソコン待機時の1時間で自動電源オフ設定。退社、外出時の主電源オフの徹底。 ・パソコン購入時は、待機時の消費電力が少ない機器を選定		年間を通して実施した。

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 3 年度目（令和 5 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区 分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電 力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 3 年度目（令和 5 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

廃棄物排出量は前年に比べ低減できた（前年比82%）。 コピー枚数は増加した（前年比113%）。
--

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

残業時間は増加した（前年比142%）。
